



市議会だより



議会日誌

5月

21日	まちづくり調査特別委員会視察研修
23日	防災対策調査特別委員会
24日	行財政改革調査特別委員会
25日	建設経済常任委員会
29日	総務常任委員会
30日	三観広域行政組合議会臨時会
31日	議会広報委員会
6月	教育民生常任委員会
1日	議会運営委員会
6日	議会運営委員会
8日	定例会
12日	議会広報委員会
13日	定例会(一般質問)
15日	まちづくり調査特別委員会

教育民生常任副委員長の改選

(新)副委員長 川北 善伴 (5月31日付)

議会広報委員会の交代

(新)委員 川北 善伴
(旧)委員 小林 照武 (6月1日付)

まちづくり調査

特別委員会研修

5月21日～23日
熊本県菊陽町・長崎県雲仙市・佐賀県佐賀市

ゆめタウンにおける地産地消の取り組みについて

5月21日熊本県菊陽町では、県住宅供給公社の田中課長より、「ゆめタウン光の森」の果たした役割等について説明を受けた。「ゆめタウン光の森」は、地元農産物スイカのブランド化(肥後浪漫)を図り、地元産品を販売し、特産品コーナーを設け、地産地消に取り組んでいた。

22日雲仙市で、「雲仙ブランド」について研修した。ここでは雲仙ブランド認定委員会をつくり、優良な農畜産物や近海でとれた海産物について審査をし、現在8団体18品目を認定し、他商品との優位性を高めている。

また、長崎市内のイズミ「夢彩都」で雲仙物産展を開催するほか、県や地元ホテル・J Aと共催で物産展開催や地元産品の使用を促している。

23日佐賀市議長・商工振興課より、佐賀都市計画事業の一環として誘致した「ゆめタウン佐賀」の出店効果について説明を受けた。今まで福岡市天神へ流出していた買物客の流れを変え、雇用動向にも

変化をもたらし、若年層の市外流出を防ぎ、高齢者も清掃スタッフや買物カートの運搬等に従事している。また、「ゆめタウン佐賀」では、商業集積での魅力アップを図り、結果として消費流入が起きている。(買物客の30%が県外)生鮮食品の3割は地場・地元の商品で構成されており、地産地消・地産外消にも取り組んでいる。



長崎県雲仙市にて

三観広域行政組合議会報告

三観広域は合併前の1市9町体制から2市体制となり、消防救急・ごみ処理施設(クリーンセンター)・電子計算センター・養護老人ホーム(七宝荘)・特別養護老人ホーム(とがみ園)等18項目に及ぶ事務処理を行っています。

最近、新聞等でクリーンセンター問題が取り上げられ、市民皆様方に心配をお掛けしておりますが、三観広域行政組合で計

画している新クリーンセンター建設については、平成12年6月広域組合の合意により観音寺市で候補地の選定を行うこととなり、粟井町奥谷地区を候補地として環境アセスメントを実施し交渉にあたり、平成19年1月に地元住民の投票により、7年の歳月を要し合意に達しました。

広域議会には2月1日に全員協議会に報告されましたが、両市議会の合意に至らず、2月26日、全員協議会で再度協議し、5月末日までに対案を出し最終結論を出すことで合意しました。

5月17日、三豊市は「新クリーンセンター建設に係る三豊市の基本姿勢について」を管理者白川市長に提出。その中で三豊市としてはあらゆる問題を検討の結果、奥谷地区での建設には同意出来ないとの意向を表明しました。

翌18日、白川市長より管理者辞任届が提出され、翌19日、横山三豊市長が管理者職務代理者に就任しました。

その結果、奥谷地区での建設は白紙に戻りましたが、三観地区でのごみ処理については、スケールメリットを生かした三観広域でのごみの共同処理については、両市議会ともに理解を示しており、今後三豊市としては謙虚に話し合いを進める必要があると痛感致しております。

三豊市議会だよりの発行・編集は

三豊市議会・議会広報委員会

〒769-1593 三豊市豊中町本山甲201-1 62-1135